

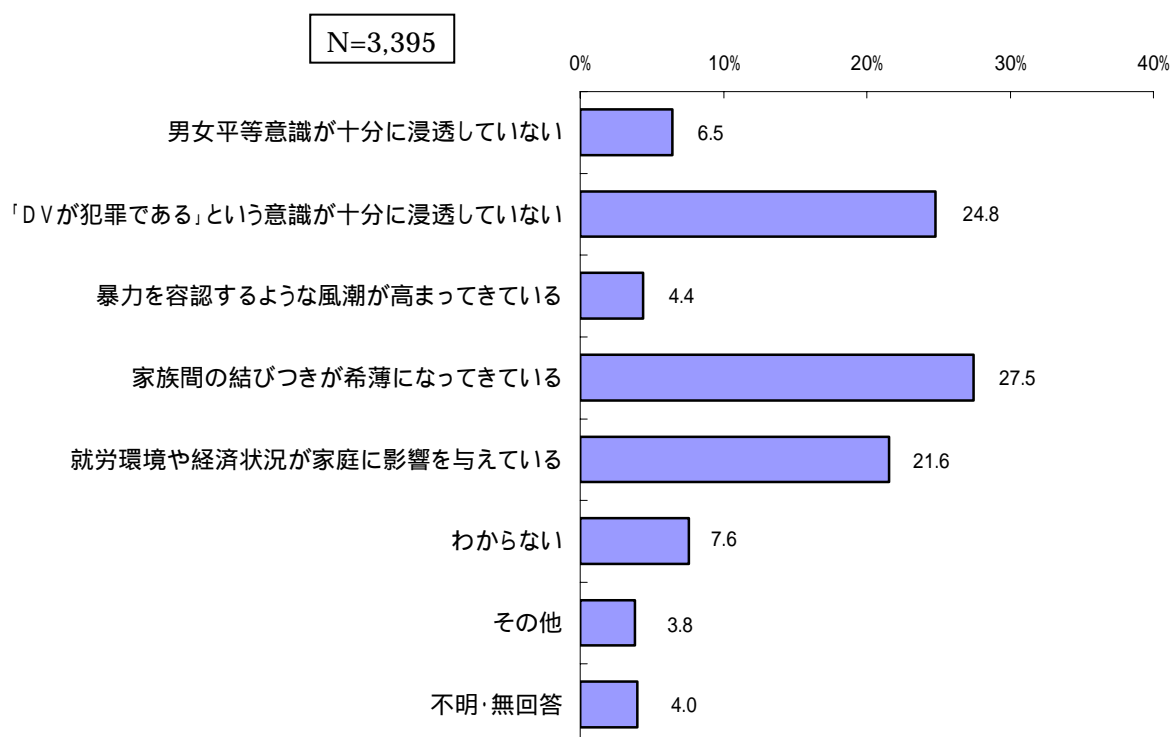
6. 配偶者からの暴力（DV）

（1）DVの起こる社会的背景

問 21 配偶者からの暴力（ドメスティック・バイオレンス、以下 DV という。）は、日常的な些細なことなどから起きると考えられています。あなたは、DV の起こる主な社会的背景は何であるとお考えですか。（ は1つだけ）

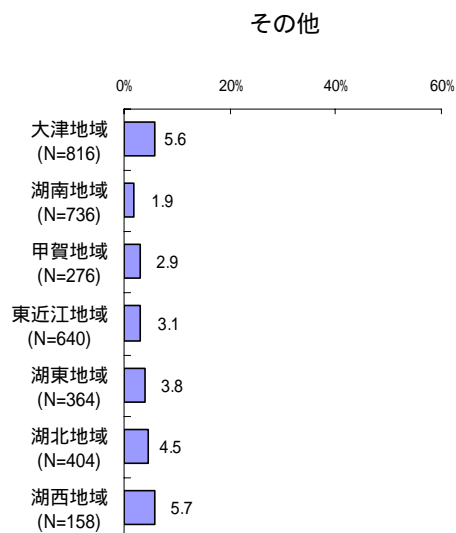
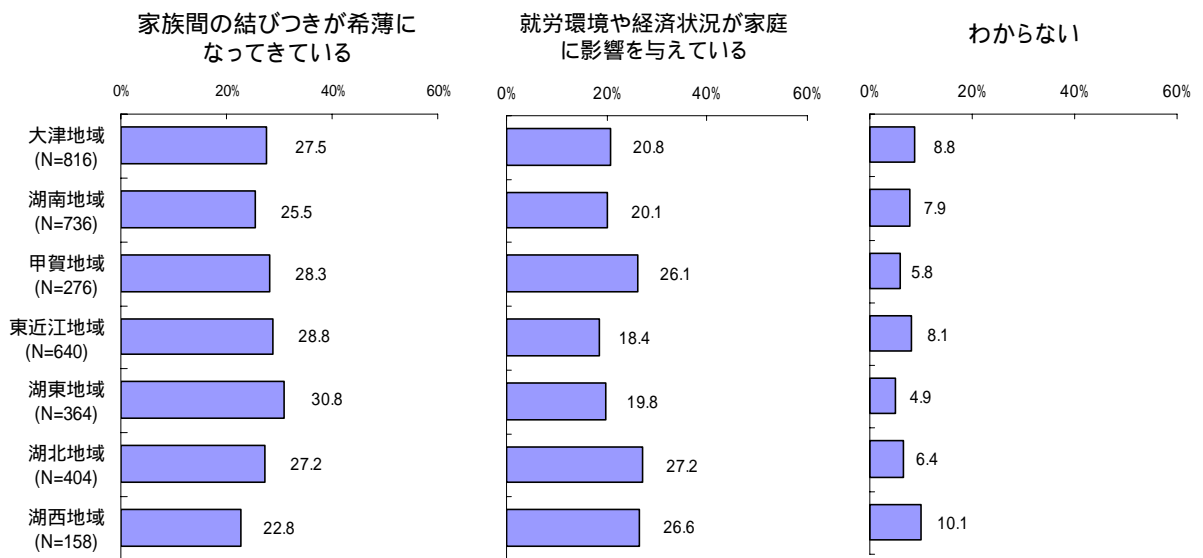
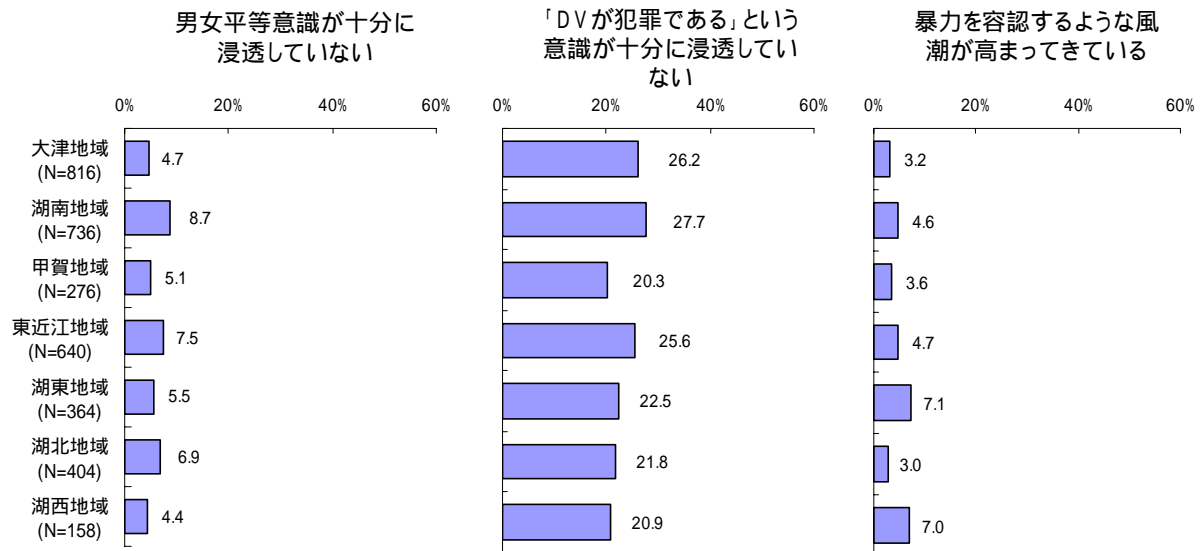
DVの起こる社会的背景は「家族間の結びつきが希薄になってきている」が27.5%

DVの起こる社会的背景として、考えられることについて、「家族間の結びつきが希薄になってきている」が27.5%で最も多く、次いで「DVが犯罪であるという意識が十分に浸透していない」が24.8%、「就労環境や経済状況が家庭に影響を与えている」が21.6%となっている。



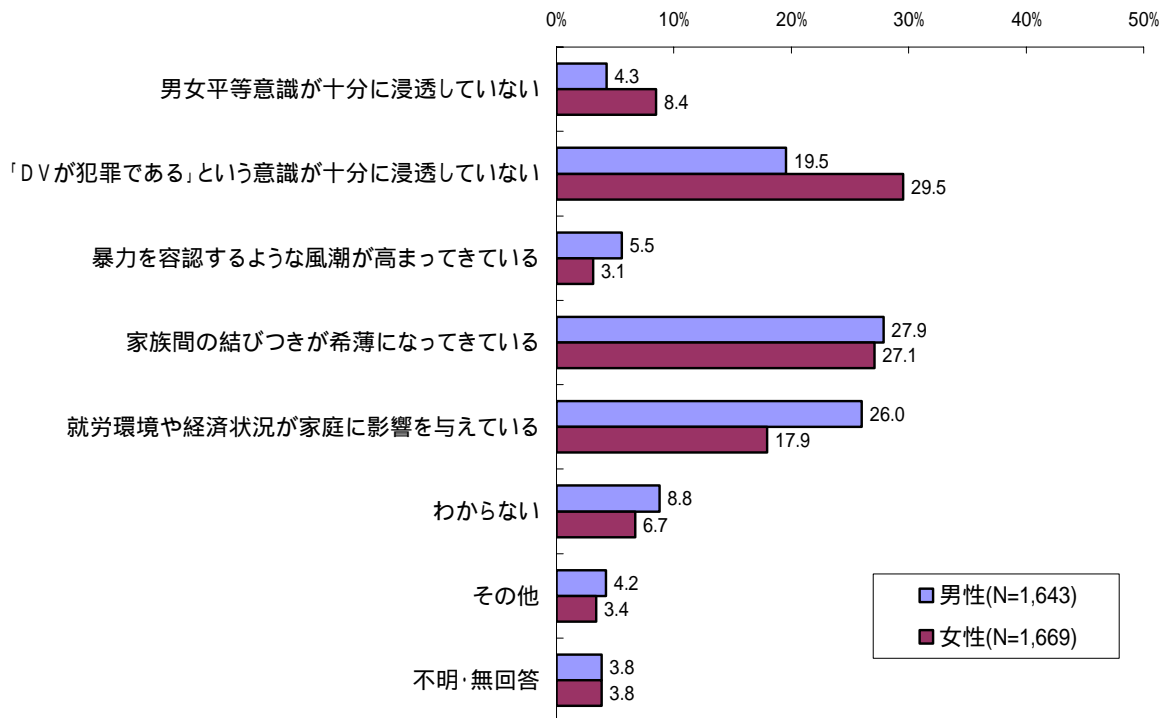
【地域別】

湖南・湖西地域以外では「家族間の結びつきが希薄になってきている」が最も多く、湖南地域では「DVが犯罪であるという意識が十分に浸透していない」が27.7%、湖西地域では「就労環境や経済状況が家庭に影響を与えている」が26.6%で最も多くなっている。



【性別】

男性は「家族間の結びつきが希薄になってきている」が27.9%と最も高くなっている。また、女性は「DVが犯罪である」という意識が十分に浸透していない」が最も高い29.5%となっており、男性より10.0ポイント高くなっている。



【性・年代別】

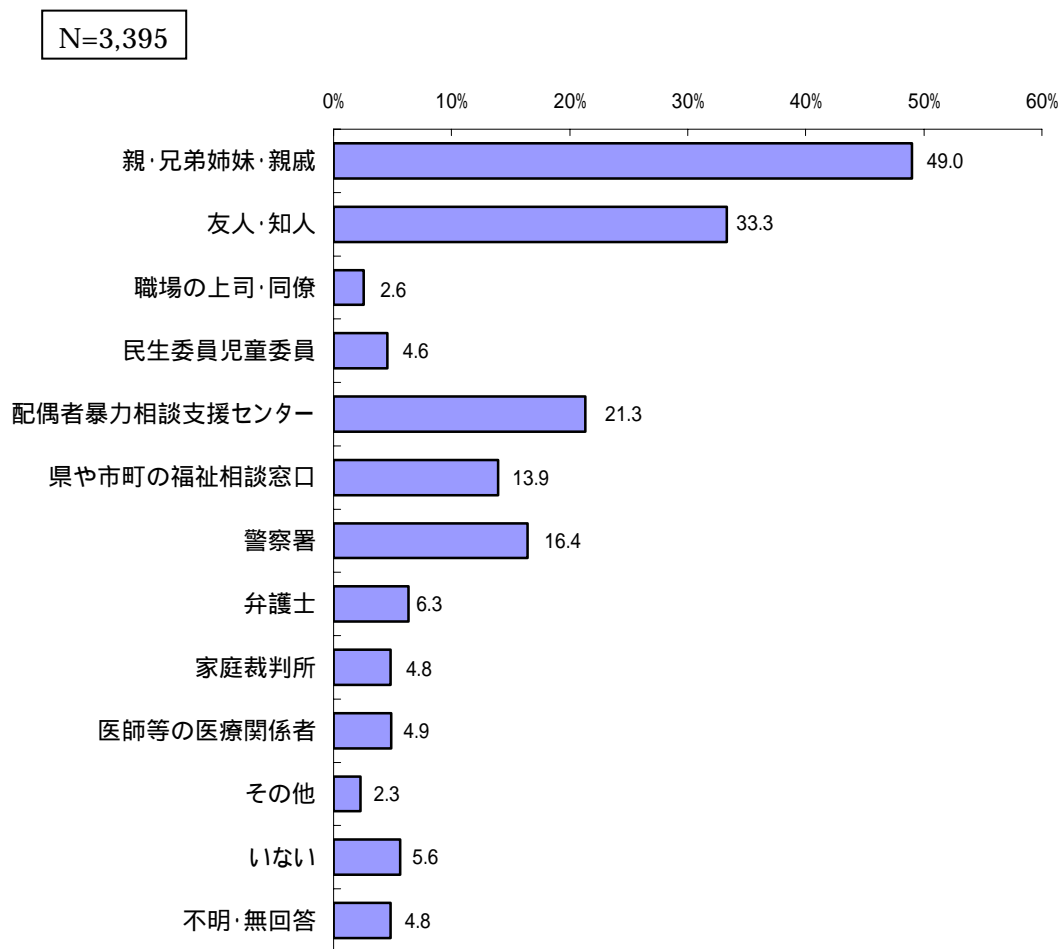
「DVが犯罪である」という意識が十分に浸透していない」が多いのは女性では20～50歳代で3割前後となっているのに対し、男性では全世代で2割前後となっている。「家族間の結びつきが希薄になってきている」が多いのは男女ともに50歳代以上、「就労環境や経済状況が家庭に影響を与えている」が多いのは男性では30～40歳代、女性では20～30歳代となっている。

(2) DV被害者になった場合の相談相手

問 22 もし、あなたがDV被害者になった場合に、相談しようと思う相手は誰ですか。
(はいくつでも)

DV被害者になった場合の相談相手は、「親・兄弟姉妹・親戚」が49.0%

もし、DV被害者になった場合に、相談しようと思う相手については、「親・兄弟姉妹・親戚」が最も多く49.0%、以下「友人・知人」(33.3%)、「配偶者暴力相談支援センター」(21.3%)と続いている。



【地域別】

いずれの地域においても1位が「親・兄弟姉妹・親戚」、2位が「友人・知人」、3位が「配偶者暴力相談支援センター」となっている。それぞれの割合には若干違いがあるものの、順位はほぼ同じ結果となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
大津地域 (N=816)	親・兄弟姉妹・親戚	友人・知人	配偶者暴力相談支援センター	警察署	県や市町の福祉相談窓口
	42.6%	32.6%	23.8%	18.1%	12.3%
湖南地域 (N=736)	親・兄弟姉妹・親戚	友人・知人	配偶者暴力相談支援センター	警察署	県や市町の福祉相談窓口
	49.5%	41.0%	22.3%	17.1%	14.9%
甲賀地域 (N=276)	親・兄弟姉妹・親戚	友人・知人	配偶者暴力相談支援センター	県や市町の福祉相談窓口	警察署
	52.2%	32.6%	21.7%	18.1%	13.8%
東近江地域 (N=640)	親・兄弟姉妹・親戚	友人・知人	配偶者暴力相談支援センター	県や市町の福祉相談窓口	警察署
	48.1%	27.5%	19.4%	16.9%	15.0%
湖東地域 (N=364)	親・兄弟姉妹・親戚	友人・知人	配偶者暴力相談支援センター	警察署	県や市町の福祉相談窓口
	55.5%	32.4%	19.8%	17.0%	11.5%
湖北地域 (N=404)	親・兄弟姉妹・親戚	友人・知人	配偶者暴力相談支援センター	警察署	県や市町の福祉相談窓口
	54.0%	29.7%	18.8%	15.3%	11.4%
湖西地域 (N=158)	親・兄弟姉妹・親戚	友人・知人	配偶者暴力相談支援センター	警察署	県や市町の福祉相談窓口
	50.6%	37.3%	21.5%	16.5%	10.8%

【性別】

男女ともに最も多いのは「親・兄弟姉妹・親戚」で、女性は57.3%、男性は40.7%と、女性のほうが16.6ポイント高くなっている。次いで男女とも2位が「友人・知人」となっている。3位が女性は「配偶者暴力相談支援センター」(26.0%)、男性は「警察署」(18.3%)となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,643)	親・兄弟姉妹・親戚	友人・知人	警察署	配偶者暴力相談支援センター	県や市町の福祉相談窓口
	40.7%	30.3%	18.3%	16.3%	15.5%
女性 (N=1,669)	親・兄弟姉妹・親戚	友人・知人	配偶者暴力相談支援センター	警察署	県や市町の福祉相談窓口
	57.3%	36.4%	26.0%	14.7%	12.3%

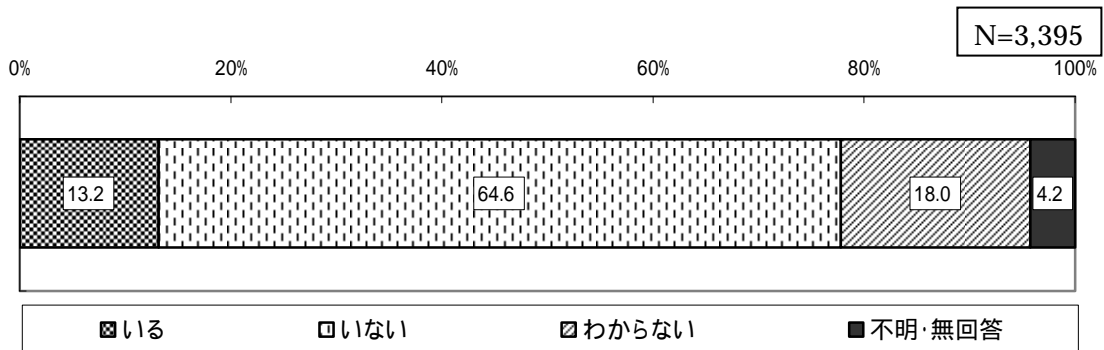
【性・年代別】

男性の30歳代、50歳以上、女性のすべての年代において、「親・兄弟姉妹・親戚」が最も多くなっている。また、「友人・知人」は男女ともに20歳代～40歳代で多く、50歳代以上では女性は「配偶者暴力相談支援センター」、男性は「県や市町の福祉相談窓口」や「警察署」が多くなっている。

(3) DV被害者の有無

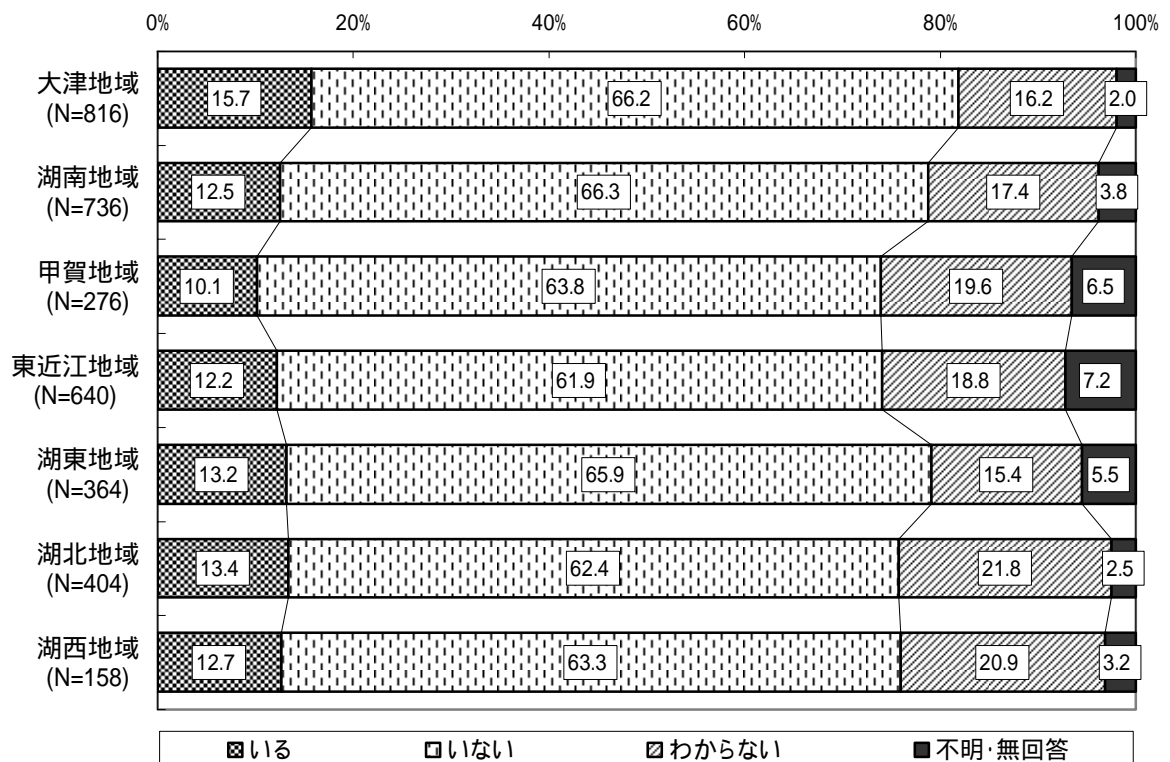
問 23 あなたの家族、親戚、友人、知人など身近な人の中で、DVを受けている人、もしくは過去に受けていた人はいますか。(は1つだけ)

自分の身近な人の中で、DVを受けている人、もしくは過去に受けていた人は、「いない」が64.6%
 家族や友人など、自分の身近な人の中でDVを受けている(受けていた)人については、「いない」が64.6%、次いで「わからない」が18.0%、「いる」が13.2%となっている。



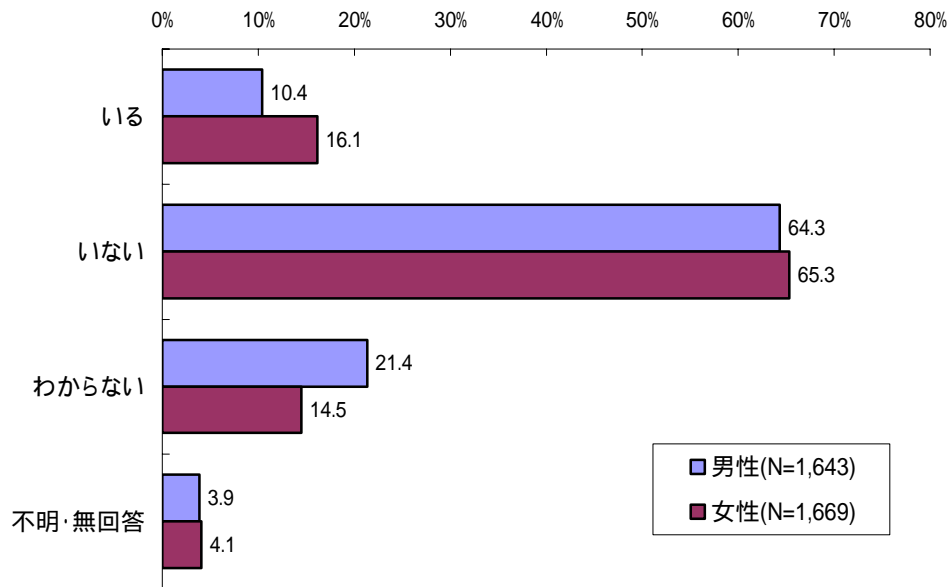
【地域別】

いずれの地域においても「いない」が6割を超え最も多い。「いる」は大津地域で15.7%と最も高い割合となっている。



【性別】

男女とも「いない」が6割を超え最も多い。「いる」は男性が10.4%、女性が16.1%で女性のほうが5.7ポイント、「わからない」は男性が21.4%、女性が14.5%で男性のほうが6.9ポイント、それぞれ高くなっている。



【性・年代別】

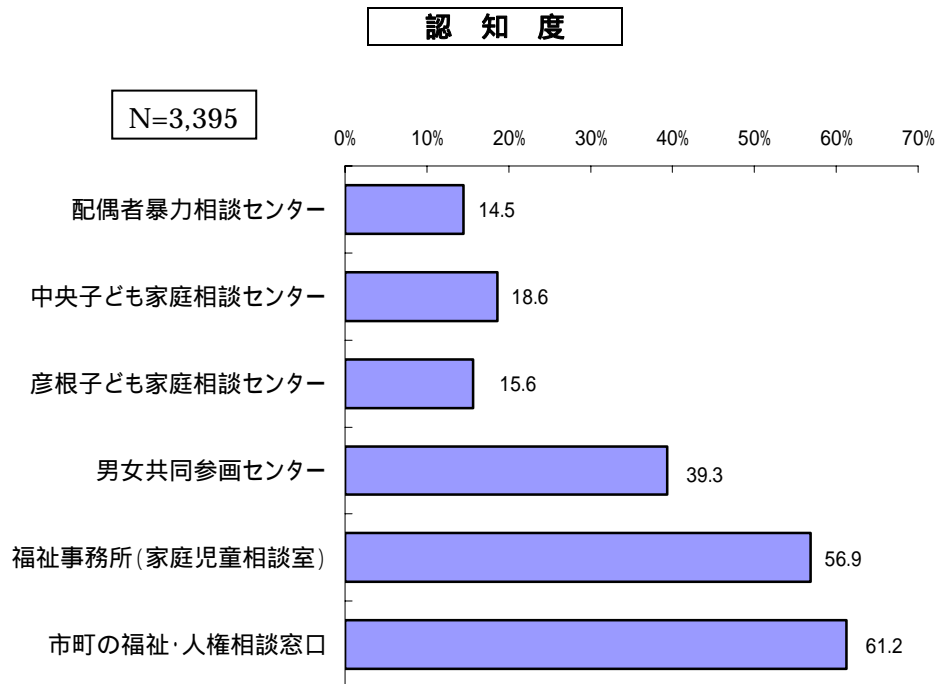
男女ともすべての年代において、「いない」が6割を超えており、男性では20歳代の67.9%、女性では70歳以上の71.4%が最も高くなっている。次いで男性の70歳以上、60歳代、女性の50歳代、40歳代となっている。「いる」は男女ともに20~40歳代が多くなっている。

(4) 各種相談機関の認知度

問 24 あなたは、下記の相談機関を知っていますか。それぞれ1つずつに をつけてください。

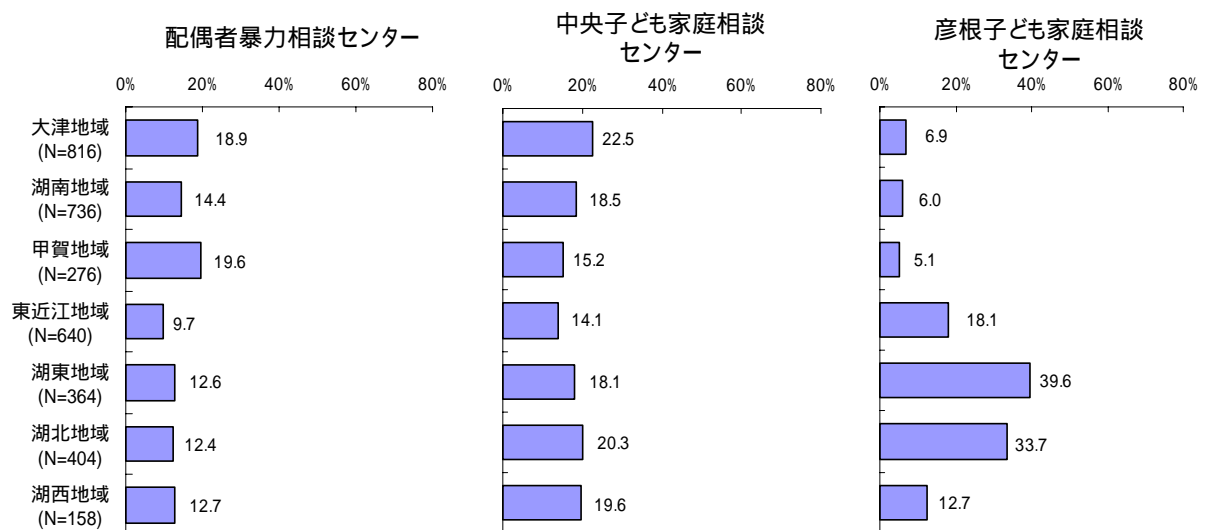
各種相談機関の認知度は、「市町の福祉・人権相談窓口」が61.2%

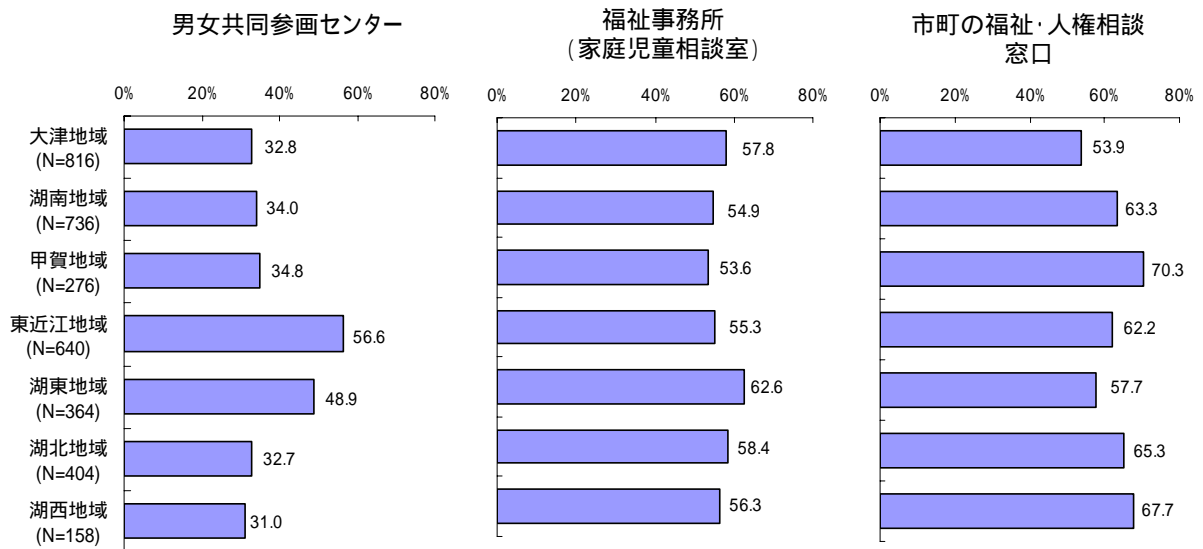
各種相談機関の認知度については、「市町の福祉・人権相談窓口」が最も高く61.2%、次いで「福祉事務所(家庭児童相談室)」の56.9%、「男女共同参画センター」の39.3%となっている。



【地域別】

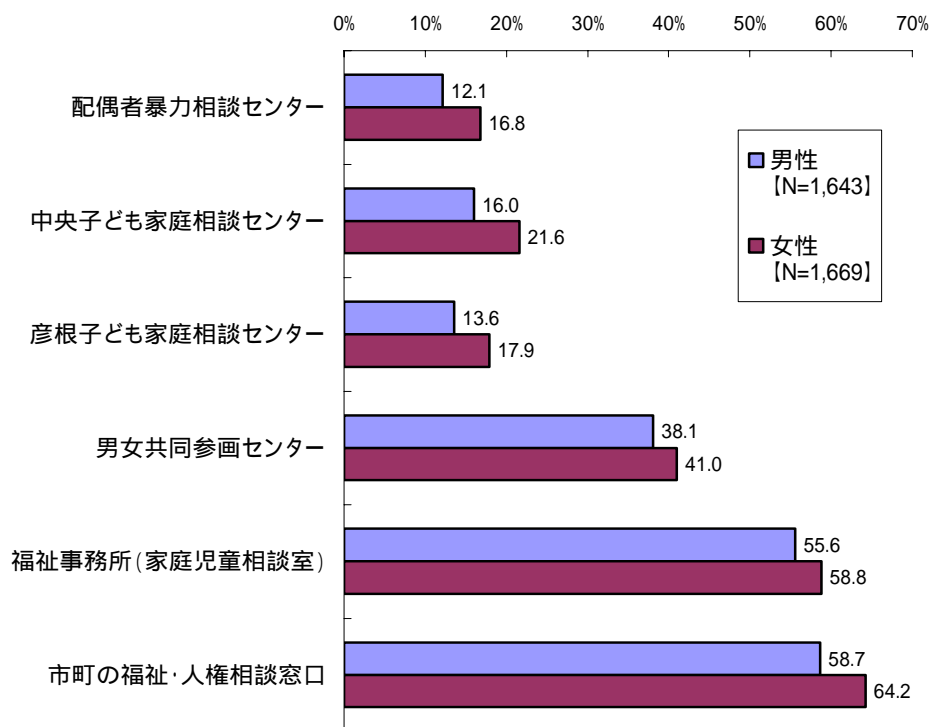
地域別での認知度は、東近江地域を除いて1位・2位を「市町の福祉・人権相談窓口」と「福祉事務所(家庭児童相談室)」が占めている。東近江地域では「男女共同参画センター」が2位となっている。





【性別】

男女とも1位から6位まですべて同じ順位になっている。全ての項目で男性より女性のほうが認知度が高くなっている。



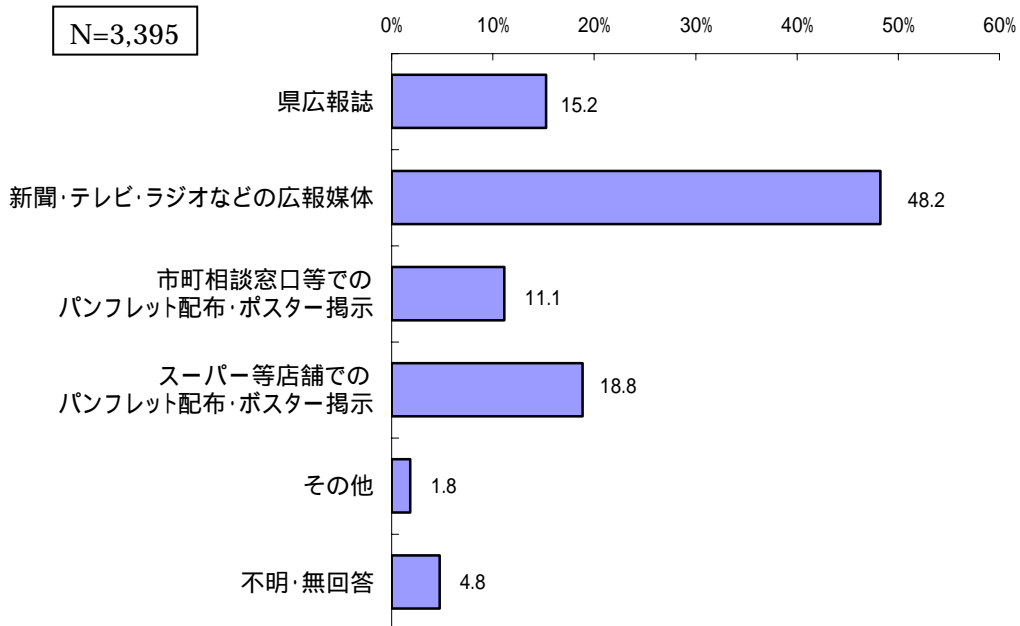
【性・年代別】

「市町の福祉・人権相談窓口」は男女とも40～60歳代で6割を超えており、「福祉事務所(家庭児童相談室)」は男性の50～60歳代、女性の40～60歳代で6割を超えている。

(5) DV対策についての広報

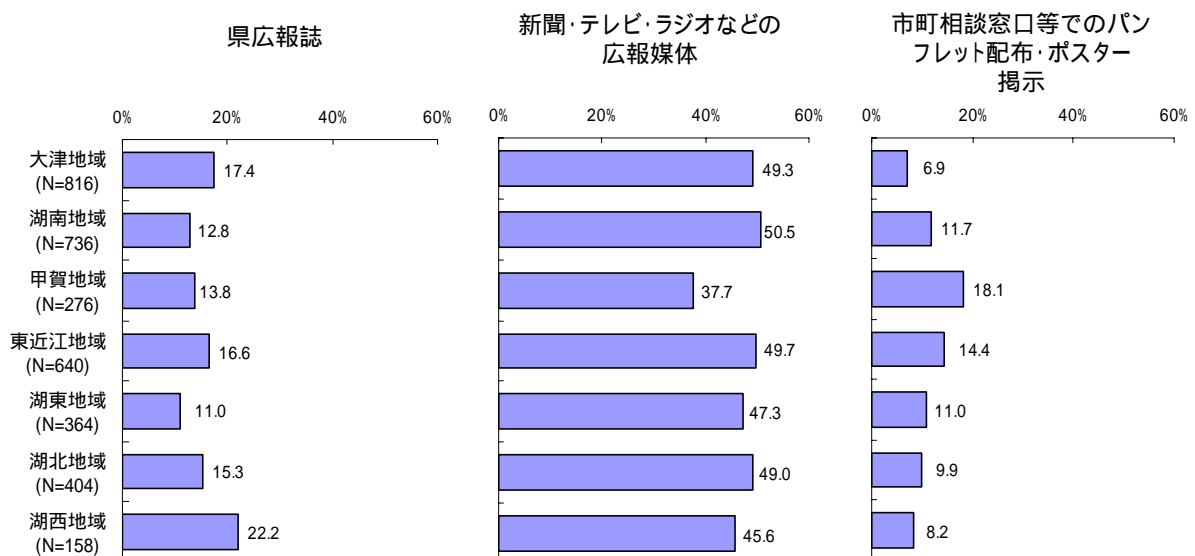
問 25 今後、DV 対策についての広報（DV 対策について・被害者相談窓口等の施策など）を行うにあたって、どのような手段が最も有効だとお考えですか。（ は1つだけ）

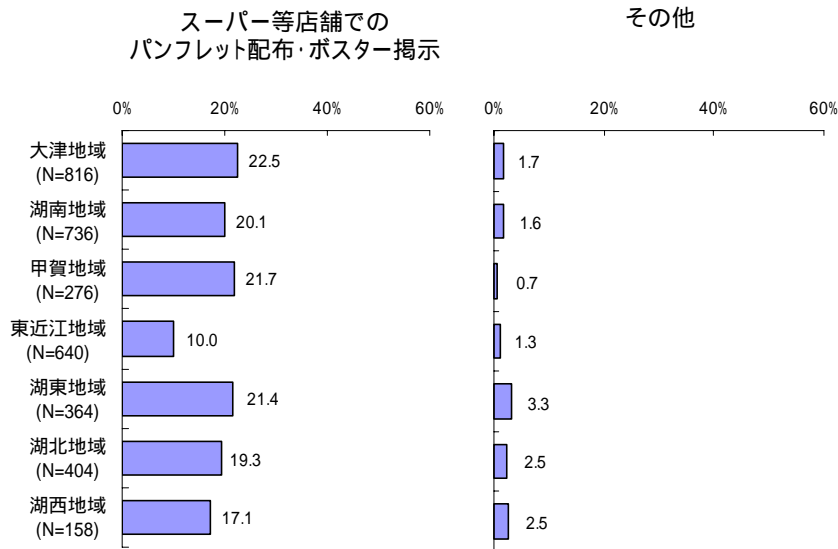
DV対策について最も有効だと思う広報手段は「新聞・テレビ・ラジオなどの広報媒体」が48.2%
 今後、DV対策についての広報を行うにあたり、最も有効だと思う手段については、「新聞・テレビ・ラジオなどの広報媒体」が48.2%で最も多く、次いで「スーパー等店舗でのパンフレット配布・ポスター掲示」が18.8%、「県広報誌」が15.2%となっている。



【地域別】

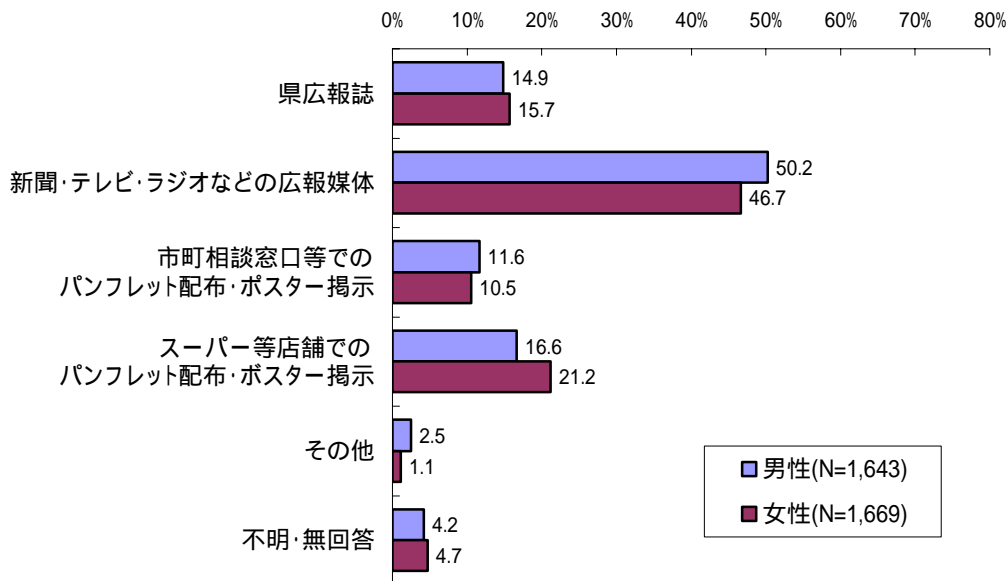
いずれの地域においても「新聞・テレビ・ラジオなどの広報媒体」が最も多く、甲賀地域は37.7%、その他の地域はいずれも45%以上となっている。また、湖西地域では「県広報誌」が22.2%、甲賀地域では「市町相談窓口等でのパンフレット配布・ポスター掲示」が18.1%と他の地域に比べ高い割合になっている。





【性別】

男女ともに「新聞・テレビ・ラジオなどの広報媒体」が最も多く、男性が 50.2%、女性が 46.7% となっている。「スーパー等店舗でのパンフレット配布・ポスター掲示」は女性が 21.2%、男性が 16.6% で、女性の方が 4.6 ポイント高い。



【性・年代別】

男性の 20～50 歳代、女性のすべての年代で「新聞・テレビ・ラジオなどの広報媒体」が最も多く、男性の 20 歳代～50 歳代、女性の 20 歳代～40 歳代では 5 割を超えている。男女ともに 60 歳以上では「市町相談窓口等でのパンフレット配布・ポスター掲示」の割合が高くなっている。